



※イラストの指文字は相手から見た形です。

手話も覚えてみよう

vol.29

○手話言語国際デーとブルーライト

9月23日は「手話言語の国際デー」です。2017年に国連総会で採択された決議に基づき、手話言語が音声言語と対等であることを認め、全ての国連加盟国において手話言語への意識を高める取り組みが求められています。

この日に合わせて、世界ろう連盟が「手話言語にブルーライトをあてよう」と呼び掛け、その象徴として、公共施設などを青色にライトアップする取り組みが世界各地で広がっています。県内でも、博多ポートタワーや小倉城などで実施されています。

青色は、国連や同連盟のロゴマークの色や世界平和を表しています。

やってみよう！～身近な言葉の手話～

普段使う言葉を手話でやってみましょう ※QRコードを読み込んで、手話の動画を見ることもできます。

言語

右手人差し指から小指までの4指を縦にそろえて立て、あごから2回前方に出す。

国際・世界

両手で地球の形の円形を作り、前方へ少し回す。

問い合わせ先 福祉支援課障がい福祉担当 ☎(584)1111(代) 📠(584)1154

奴国の丘歴史資料館で、考古企画展「発掘のむかし・いま・ミライ」を開催中です(📍1016126)。これにちなんで、最新技術である科学分析やデジタル技術も駆使した、発掘調査の「いま」を紹介します。

平成26・27年に実施した須玖岡本遺跡岡本地区20次調査では、弥生時代中期前半(約2200年前)の甕棺(つぼ)が見つけられました。棺内には、銅剣と、銅剣の飾り金具の青銅製把頭飾(たてしほり)が副葬されており、令和3年に市指定文化財になりました。

発掘時は、木製品や布などが残存する可能性を考え、銅剣・把頭飾と

奴国の丘歴史資料館 名誉館長の市報 DE 講義

vol.14

進化を続ける発掘調査

武者 純一 名誉館長 (福岡大学名誉教授)

問い合わせ先 文化財課調査保存担当 ☎(501)1144 📠(573)1077



▲双眼実体顕微鏡でのぞきながら発掘する様子

周辺の土を、液体窒素や医療用ギプスを用いて固定し、甕棺の破片ごと取り上げました。

次に、発掘作業を屋内で行い、X線CT撮影で青銅器の状態や周辺の微細物を特定しました。銅剣はマイクロスコープで観察すると、表面に布目が残っており、布を巻いて副葬したことが分かりました。さらに、青銅器を取り上げた後の甕棺片に残る土をCT画像と照合し、双眼実体顕微鏡で見ながら竹串などで発掘を進めると、赤色顔料や人骨(歯)、木質が出土しました。この木質は、銅剣の柄が装飾品の一部です。

発掘現場での遺構や遺物の記録は、通常の図面作成の他に、3次元計測を導入しました。科学分析やデジタル機械を使って緻密に調査することで、さまざまな情報を得ることができ、研究や展示などへの活用の可能性も広がります。

「ミライ」に向けて、発掘調査はますます進化していくことでしょう。